

【NEWS RELEASE】

2025 年 11 月 26 日

各 位

S M B C グローバル・インベストメント&コンサルティング株式会社

東京科学大学との LLM（大規模言語モデル）基盤共同研究の開始について

東京科学大学 岡崎研究室（教授：岡崎 直観）と S M B C グローバル・インベストメント&コンサルティング株式会社（代表取締役社長：小林 賢、以下、「SGIC」）は、資産運用分野に特化し、日本語処理能力に優れた LLM（大規模言語モデル）基盤の開発を目的とした共同研究を 2025 年 11 月から開始しました。

1. 背景

近年、生成 AI や LLM は業務効率化や新たな価値創造を通じて社会に大きな変革をもたらしています。金融分野においても、情報分析や意思決定支援、顧客対応など幅広い業務での LLM の活用が進みつつあります。

現在、多くのサービスやシステムでは、汎用型 LLM が基盤として利用されており、一定水準の成果を上げています。しかし、金融業務における高度な要件を満たすには不十分です。汎用型 LLM は金融分野の専門知識や運用会社独自のナレッジが不足しており、既存の金融特化型 LLM であっても、業務要件を満たす水準にはまだ達していません。

こうした課題を踏まえ、当社では、自社で蓄積してきた金融ナレッジを活用し、資産運用関連業務と日本語にも強い LLM の構築を目指します。この取り組みにより、専門用語や社内用語を反映し、ハルシネーション（誤情報生成）の抑制が可能となります。さらに、こうしたモデルの開発は、運用業界全体の底上げを牽引し、国内の AI 技術力の強化、国際競争力の向上、新たな金融サービス創出の基盤となることを期待しております。

東京科学大学 岡崎研究室では、日本語に強いモデル「Swallow」を継続的に開発しております。Swallow は、基盤モデルの汎化能力（英語の読解・生成性能）を損なうことなく、日本語性能を改善することに成功しています。この技術的ノウハウは、金融分野の追加学習においても有効であり、ベースモデルの性能を維持しながら金融特化型 LLM を構築できると考えています。

2. 共同研究概要

本共同研究では、主に以下に取り組めます。

(1) 金融特化型 LLM 構築に必要なデータの整備

金融データ（ニュース記事、経済・政策レポート等）を体系的に整理・加工し、モデル学習に適した形に整備します。

(2) モデルの開発

岡崎研究室が有する大規模言語モデル開発のノウハウを活用し、金融分野と日本語に強い LLM の学習を実施します。

(3) 評価

日本語や金融評価ベンチマークに基づき、モデルの性能を多角的に評価します。

(4) 研究成果の発信

本研究の成果は、論文や学会発表等の形で発信し、金融分野における LLM 活用の発展に貢献します。

3. 東京科学大学 岡崎研究室について

岡崎研究室は、自然言語処理、すなわち言葉を操るコンピュータの研究を中心に、人工知能の実現を目指しています。例えば、外国語の文章を翻訳する、相手と対話する、質問に答える、状況を説明する、といった知的なコミュニケーションをコンピュータ上で実現するための原理や方法を探求しています。言語学、統計学、機械学習などの基礎を踏まえながら、深層学習や大規模言語モデルなどの最先端のアプローチも積極的に取り入れています。さらに、ビッグデータ解析による社会観測など、研究成果の実社会での応用も展開しています。

<https://www.nlp.c.titech.ac.jp/index.ja.html>

本共同研究を通じて、資産運用業界における日本語対応の高度な言語モデル活用を促進し、運用戦略の高度化や投資判断支援、市場分析、顧客向けレポート作成などの業務効率化を目指します。

以 上